



野々市町文化協会

だより

第8号

発行人 協会 谷下 通夫
 野々市町文化協会 会長
 事務所 野々市町中央公民館内
 野々市町本町2丁目1-20
 TEL (0762)48-0521

資源保護のため再生紙を使用しています



ごあいさつ
 野々市町文化協会会長
 谷下 通夫

いよいよ夏本番。町民の皆様方にはいかががお過ごしでしょうか。
 文化協会は昭和六十一年に発足以来、数えて十年目を迎えました。

この間、協会の諸先輩をはじめ町民の皆様のご理解、ご尽力により、加盟十四団体の文化協会として基盤も逐次整備されてまいりました。ここにあらためて皆様のご協力に対して深く感謝を申し上げる次第であります。

ご承知のように、今日のように変化の激しい社会にあつては一人一人が、それぞれの個性と能力を最大限に伸ばし、生きがいのある充実した生活が必要であります。そのための体制や機会を提供できるのが、文化協会の活動だと思えます。各種文化団体の連合体である文化協会の活動そのものが町の文化向上、住民福祉の向上、強いては、「心の豊かさ」に大きく寄与し得るものであると考えます。

加盟団体の連携を密にし、より幅広く、より質の高い活動ができるよう、こん身の努力を傾注するところでございます。今後とも、町民の皆様方、町当局並びにご関係の方々との深い御理解と御支援をお願い申し上げます。

花と緑ののいち椿まつり'95

「春はここから椿とくらし」

をテーマに多彩に開催

「花と緑ののいち 椿まつり'95」(野々市町・野々市町文化協会主催)が三月十八日・十九日の両日文化会館fとふれあい会館を会場に開かれ、町内に咲く町花木「椿」の切り花等の展示や椿を題材とした美術や文学作品の展示、椿芸能祭、花と緑の市、特産物コーナー、囲碁・将棋対局大会、お茶席・つばき食堂など、盛りだくさんの催しに町内外から過去最高の四千人の人出で賑わいました。



文化協会 加盟団体一覽	団体名				代表者				設立年				会員数			
	1	2	3	4	村上 一夫	高橋外茂男	瀬尾 亮弥	二又 米造	昭和35年	36年	49年	52年	65名	60名	71名	76名
	野々市じょんから節保存会	菊花協会	椿愛好会	美術協会	村上一夫	高橋外茂男	瀬尾 亮弥	二又 米造	昭和35年	36年	49年	52年	65名	60名	71名	76名
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計		
	野々市市文化協会	読書会連絡協議会	社交ダンス愛好会	民謡協会	俳句協会	盆栽愛好会	囲碁協会	将棋協会	読書会連絡協議会	社交ダンス愛好会	民謡協会	俳句協会	茶道協会	計	1381名	

職名	氏名	所属団体	職名	氏名	所属団体
顧問	安田 彦三	美術協会 華道協会 将棋協会	常任理事	小林 孝次	民謡協会
	山田 清司			金丸 直治	俳句協会
	東谷 弘			吉田 郁子	茶道協会
	飯森 又郎			栗 よし子	じょんから節保存会
参与	松本 佐一	美術協会 音楽文化協会 盆栽愛好会 囲碁協会 将棋協会	理事	野々市利男	美術協会
	米林 勝二			丸山 順孝	音楽文化協会
	谷下 通夫			若島 翠節	華道協会
	無量井 三郎			小柳 幹男	盆栽愛好会
会長	二又 米造	美術協会 華道協会 将棋協会		魚住 雅一	囲碁協会
副会長	館 惣吉			大島 昇	将棋協会
	館 惣吉			亀井 政子	読書会連絡協議会
	館 惣吉			村上 一男	社交ダンス愛好会
理事長	室岸 洋二	じょんから節保存会 菊花協会 椿愛好会 音楽文化協会 盆栽愛好会 囲碁協会 読書会連絡協議会 社交ダンス愛好会		黒保 竹吉	民謡協会
常任理事	山口 正昭			奥村誠一路	俳句協会
	高橋外茂男			安田 光男	茶道協会
	瀬尾 亮弥			綾間 義明	菊花協会
	山本 晃彦	じょんから節保存会 菊花協会 椿愛好会 音楽文化協会 盆栽愛好会 囲碁協会 読書会連絡協議会 社交ダンス愛好会	監事	中島 康雄	盆栽愛好会
	向田初三郎			北 清志	
	源野 辰一			山口 良	
	北村 倫子			大久保邦彦	

日時	事業名	場所
7月10日 ~16日	野々市町 美術展後援	フォルテ
7月15日	文化協会 だより発行	全戸配布
7月20日	視察研修会	羽咋市
8月1・2日	野々市じょんから まつり協賛	野々市小周辺
11月3日	文化協会表彰式	フォルテ
11月3日 ~12日	野々市町民 文化祭協賛	中央公民館 フォルテ
1月5日	新春書きぞめ 大会後援	中央公民館
1月中旬	懇親パーティ	フォルテ
3月16・17日	花と緑ののいち 椿まつり'96	フォルテ ふれあい会館

盆栽と「出会い」を大切に

盆栽愛好会

思えば人生というものは、はずみというものがあつた。よく言われている「出会い」の一つであるかも知れない。昔、職場で盆栽の展示会を提案したことがある。数点あればよいと思つたのに次から次へと運びこまれていく。数十点である。受付の机の周りの盆栽の緑。これを持ち込む人達との「出会い」。そして我々の考えてもいなかった会場風景。「出会い」となつて展示会は成功した。そして見ることによつて興味を持ち、思いがけない発見をする。盆栽会に入会し、「そのはずみ」を利用し、一鉢を育てることにより大自然を思い、日頃丹精こめた盆栽を、ごく自然の中の気持をもてば成功である。盆栽は生き物である。愛情をもつて育てれば必ず答えてくれる。当盆栽愛好会では、研修旅行、展示会は年間三回程度行つていきます。多くの入会者を歓迎します。



盆栽は生き物である。愛情をもつて育てれば必ず答えてくれる。当盆栽愛好会では、研修旅行、展示会は年間三回程度行つていきます。多くの入会者を歓迎します。

第十一回全員花展

華道協会

五月二十七日、二十八日の二日間、フォルテ小ホールに於て初夏を彩る花材で出展者が腕を振るう十一回目の花展があり、入場者八〇〇名余りの方々が鑑賞にお見えになりました。九流派の社中の方々が流の掟に従い色彩豊かに一本一草にそれぞれの思いを託して八十杯、大作、中作BOXと場内せましと盛大な花展となり会員にとつて思い出に残るものとなりました。

今度は研修旅行が予定され多忙な中にも全員一致して「華道文化に協力」を念じております。



椿愛好会のこれから

椿愛好会

椿が町の選定花木にされたのを機に椿愛好会が創られ、二十年が過ぎました。十五周年の記念に文化協会の支援で実施した「椿まつり」も、今では町のまつりとして定着しました。最初に企画した私達の思いとは多少違つていますが、椿を通して町を愛し、自然を大切にすることを深く知ってもらふ運動として定着したことは、大変嬉しく思います。



正しい思いが、世の中を変えていく時代になりました。きれいな花を咲かせてくれる椿に感謝し、暮らしのなかの椿を通して、明るく潤いのある町づくりに、力を注ぎたいと思います。

「ミュージックタウン野々市」を夢見

音楽文化協会

「音を楽しむ」事を大切にする愛好者達が集う私達音楽文化協会。会員個々が、それぞれの音楽分野において積極的な活動を行つてきました。音楽の形態は違いますが「より質の高い音楽をお客様に聞いて頂きたい」という願いは全ての会員共通のものであります。お蔭様で近年では各加入団体ともめきめき実力を高め、県内に数ある市町村の音楽団体の中でも高い評価を頂いています。協会結成以来17年。これからの当協会の課題は「地域に根ざした活動」ミュージックタウン野々市の創造です。今日までの活動のノウハウを持ち寄り、他市町村の方々から「野々市に行けば良い音楽が聴ける」と言われる様な音楽イベントを企画、開催できればと思つています。

こんな私達の想いに賛同して頂ける皆様、御一緒に夢を追いかけてみませんか？



地域文化の振興のために

美術協会

私達の美術協会は、野々市町文化協会発足当初から参加し、年々会員数も増加し、本年度は、76名の会員です。日本画、洋画、書、写真、彫刻、工芸の6部門で、地域文化の向上のため、全員で活躍しています。私達は、他の分野と異なり、一年中が制作に追われる部門なのです。これも宿命とも言えるのですが、町並びに議会当局のご理解とご支援がないと出来ないと思つています。今後も益々、美を愛し、地域を愛する人達が参加できる明るく楽しい協会にしたいと願つております。



後世に伝えよう 野々市じよんから節

じよんから節保存会

郷土芸能の「野々市じよんから節」を大切に受け継ぎ、後世に伝えることと広く町外にPRするための活動を続けていきます。

「野々市じよんからまつり」総踊りでは、踊り方や舞台踊りも務めています。また町内外の各種事業等からの出演依頼も多数あります。入会を希望される方は、踊り、唄、三味線、笛、太鼓と希望される部門を申し出て下さい。

五七五の世界へのいざない

俳句協会

俳句協会が発足して五年目に入り、多くの結社が集い、親睦も深まり会員六十五名になりました。節目として会長が寄贈されました。節目として会長の西田幾多郎記念館、上山田方面(樹齢百年の喜多家の桜を訪れ句会をし第一回の受賞は西田富子(あらうみ)さんでした。

《これからの行事》

野々市じよんから俳句大会会場内に投句箱を設置し、会員はもとより町民(学生・生徒・児童)と幅広く募集し、町長賞はじめ多数の賞品を準備致します。近隣の町村の方も応募できます。又、文化祭、椿まつりには俳句展を開き、新年句会を予定しております。四季の移りかわりも新鮮に見えて来ます。あなたも五七五の自然のお便りを書いて見ませんか。



LOOK 通信

申し込みは中央公民館へ。

一盃から平和を

茶道協会

協会が結成され早いもので二度目の野々市じよんからまつりを迎える頃となり、茶道協会も「流水無間断」そのまゝに、会員のころころ一つに、今日迄業しく催しの場を持つことが出来ました。ふと、時雨る、音に庭の一隅の紫陽花が今年も美しく花をつけ心を和ませてくれる昨今です。

「花は野にあるように」茶席の花を皆様が美しいと感じる事ができるのは、日頃の精進の積み重ねでございませうか、この頃しみじみと感じる事でございませう。

世の中の素晴らしい進歩の中、私達は新しいものを吸収しながら前進し、おだやかな心、優しい心を茶道を通して育んでゆきたいものと存じます。協会の門は開いており、お茶を一杯如何がでしょうか。お待ちしております。



碁一緒にやりましょう

囲碁協会

碁は、上手下手に関係なく、楽しいゲームだし、趣味でも最高といえますね。

碁の対局を行うことは、児童では思考力の養成を、動きのある職場では適切な決断力とストレス解消に、そして

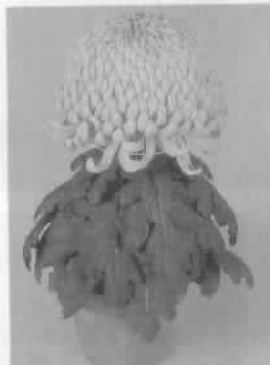
老いてはボケ防止に役立ちますよ。中央公民館での定例会(毎週土曜日の晩と日曜日の午後)にいらつしやい、待つております。

碁をやるうかなど思った人から県内トップ級までと、碁の力の差があつても碁一緒に楽しんでおります。



大菊(福助苗) 無料分譲

菊花協会



野々市町菊花協会は今年で、創立三十五周年になります。

その記念事業として、八月十三日(日)中央公民館ロビーにおいて、福助苗ポット植え二本と、作り方資料を、無料でお分けしたいと思いますので、どなたでもお気軽においで下さい。又、その際、大菊七本立の、言い合わせも受け賜りますので、どうぞご遠慮なく御申し出下さい。菊花協会は六十名の会員と、百名の準会員を有しますが、

LOOK

加盟

「民謡は心のふるやと」

民謡協会

この協会は公民館を中心とした野々市中央・富奥・郷・押野・丸木の各教室があり現在会員は百十余名と年々増えてまいりました。

民謡はふるさとが育み、唄い難い大切な民族芸能であり、美しい自然への憧れとともに生活の中の、素直なよろこび、かなしみが織り込まれ、その唄は、私達の心の福と申せます。私達はすぐれた伝統を大切に、豊かな地域づくりをめざし活動を続けていきたいと考えております。



かな地域づくりをめざし活動を続けていきたいと考えております。初心者でも大歓迎いたします。民謡、民舞に興味のある方はいつでもお気軽にご相談ください。心からお待ちしております。

熱戦は時間との闘い

将棋協会

当協会の発足は昭和五十八年で、現

在会員数は百名を超え県内では最大の組織と内容の充実を誇っています。例会では毎週木曜日中央公民館三階和室で七時から十時まで、A・B・C・D級にわかれて順位戦が繰り広げられております。

A級は県内トップ級の実力者ぞろい。D級では初心者や子供も頑張っています。対局は総て持ち時間三十分で競技時計を使用しています。終盤は残り時間を気にしながら時計をのぞいての熱戦が展開されます。

九月三日に文化会館で第八回県下将棋大会を開催しますので、例会とともにぜひ一度、愛好者のご参加をお待ちしております。



若さと健康を保つために 社交ダンスを

社交ダンス愛好会

毎週火曜日の夜、中央公民館でプロの先生の懇切丁寧な指導のもとに初心者の方もベテランの方も楽しく一緒にレッスンを励んで居ります。

年間行事として、文化祭や椿まつりでの技術発表会や、会員相互の親睦のための温泉行きなどのほか福祉事業の賛助の一端として、チャリティダンスパーティー等も行っております。

愛好会の目的は品位あるマナーと正しいステップを身に付けいつまでも若

読書の楽しみを味わっています

読書会連絡協議会

単独で読むのは敬遠するような作品も、単位読書会或いは合同読書会での読後感想発表により、読み手の個性や鋭い感性があらわれ、新鮮な発見があり、一冊の本の内容は更に広く深くなります。読むだけではなく文字散歩も楽しい行事のひとつです。

今年、又新しい読書会が誕生しましたが、仲間が増えることは嬉しいことです。

合同読書会で読む本は、町立図書館で手配して下さることも有難いことです。



平成6年度表彰式
野々市町・野々市町教育委員会表彰
文化協会・体育協会表彰



野々市町文化協会表彰
文化活動の功勞・功績をたたえる

平成6年度文化協会表彰式が、十一月三日(文化の日)文化会館で挙行され、次の三氏一団体に表彰状と記念品が贈られ、それぞれの功勞、功績が讃えられました。

文化協会表彰

【文化功勞賞】

本戸 隆治(本町三丁目)

町公民館の陶芸教室講師として、陶芸の普及指導に尽力されるとともに、町美術協会理事として会の発展に貢献。新槐樹社展文部大臣奨励賞受賞。

【文化振興賞】

若島 翠節(藤平田二丁目)

町華道協会設立以来、役員として他流派との円滑な運営に手腕を発揮し、後進の指導、会の発展に尽力。本町の文化振興に貢献。

【文化奨励賞】

ムーンライト・ジャズ・オーケストラ

全日本アマチュアビッグバンドコンテスト優勝。ジャズの本場アメリカモンタレージャズフェスティバル、クルーズに出演。

西田 富子(太平寺三丁目)

第三十回室生犀星俳文学賞受賞。

また、協会表彰に先立ち、野々市町の表彰が行われ、次の二氏が受賞されました。

芸術文化振興賞

故北 貞雄(本町四丁目)

町花木椿の普及に尽力されるとともに町椿愛好会の設立、発展に貢献。

村上 清子(本町一丁目)

老人福祉センター椿荘において茶道の指導、普及に尽力され、高齢者の生きがい活動に貢献。

わが協会にこの人あり 加盟団体を支え活躍中の「期待の星」の方々をご紹介します。



野々市町菊花協会

島崎 文雄さん



わが協会には、なくてはならない人、その人の名は、島崎文雄。ハウスにはいつも人が集まる。笑いと談議が交差する八十歳の若き青年。

人気の秘密は、やさしく、さわやかで、それでいて心がある事。石川県の特別審査員であり、中学校や会員その他近所の方々の菊苗作りに、毎年何百とさされ、又、ご指導も戴いています。

野々市町菊花展には、常に参与花として大輪を出品され、十一月三日文化の日、大ホールの表彰式典には、この人の花あり、常に控えめで、人に頼まれると「いや」といえない人柄が、又いい。いつまでもお元気で。

(高橋外茂男 談)



野々市じよんから節保存会

粟 よし子さん



野々市じよんから節保存会の踊り子部長、粟よし子さんにインタビューしました。

少しだけ自己紹介して下さい。

粟 では、名前は粟よし子。住所は本町一丁目のある所に住んでいます。家族はいっぱい。今度息子が可愛いお嫁さんをもらう予定です。趣味は編み物。特技はじよんから踊りということにしよう。

粟さんがじよんから踊りという知り合ったのは。

粟 今からこれ二十年前ほど前の野々市へ嫁に来たときですね。私は昔から盆踊りが大好きだったこともありまして、各地区の盆踊りすべてに踊りにいったときのことです。

苦勞話などありましたら。

粟 私が受け継いだじよんから踊りと昔からの踊りとのギャップを埋めることや、舞台用の踊り構成に仕上げるのに苦勞します。しかし私は踊りというものが大好きですし、会員のみなさんと集まってワイワイできるのが楽しいです。

最後に町民の方々へ一言。

粟 じよんから踊りは決して難しい踊りではなく、鼻唄で踊れる踊りだと思えます。是非一度保存会の門を叩いてみて、踊りを覚えてみて下さい。ありがとうございます。

聞き手(小川幸人)